

運転保守状況（備考欄）

2号機

●原子炉補機海水系ポンプ（A）出口逆止弁の点検について

12月17日、調整運転中の2号機において、原子炉補機海水系（※1）の定期切替（I系統からII系統）を行うため、I系統の原子炉補機海水ポンプ（A、C 2台）を停止したところ、A-原子炉補機海水ポンプが逆回転したことから、当該ポンプ出口に設置している逆止弁（※2）（以下、「A-ポンプ出口逆止弁」という）が完全に閉じていないことが判明。

12月18日、A-ポンプ出口逆止弁の状態を確認するため、当該ポンプの起動試験を行ったところ、当該弁は正常に閉止。

その後、A-ポンプ出口逆止弁の機能を確認するために、12月20日に再度当該ポンプの起動試験を行ったところ、当該ポンプに同様な事象が再現。

このため、12月23日より、A-ポンプ出口逆止弁を分解点検することとした。

なお、当該系統の機能については、上記の事象を確認した後においても、運転中の機能に問題ないことを確認。

また、II系統の原子炉補機海水ポンプ（B、D 2台）により、その機能を満たしており、I系統へはポンプ出口の電動弁閉により、系統にある海水が逆流することはない。

（中国電力（株）公表済）

12月23日、A-ポンプ出口逆止弁の弁蓋を開放し内部を確認したところ、弁箱内の弁棒の廻りに泥状の付着物があり、弁が動きにくい状態にあったことから、弁箱内の清掃・手入れを実施。

12月24日、当該逆止弁を組み立てたのち、ポンプを起動して逆止弁の動作状態に異常のないことを確認し、20時20分、通常の状態に復帰。
（中国電力（株）公表済）

（※1） 原子炉格納容器漏えい率検査

原子炉建物内の原子炉補助系機器（ポンプ等）を冷却するための系統を原子炉補機冷却系といい、この冷却水を海水により冷却しているのが原子炉補機海水系である。なお、系統および系統の2つの系統から構成されており、通常、定期的に系統を切り替えながら、一方の系統のみ運転している。

（※2） 逆止弁

ポンプ停止時等に、系統内の海水が逆流しないよう設置している弁